おぢか議会だより

第100号　2017.7.28

えっ100号なの？
私はこの表紙が好いちょる～（友遊会の皆さん）

特集　100号を振り返る・　2
定例7月会議・・・・・・・・・・6
いっぱんしつもん・・・・・・・9
今年も出前議会・・・・・・・・18
1年間のまとめ（議会白書）・・22

編　　集　小値賀町議会　広報常任委員会
発行責任者　小値賀町議会議長
電　　話　0959-56-3111

おかげさまで　議会だより発刊100号

議会だより発行に携わってこられた多くの先輩議員の労苦に感謝
そして、なにより読者の皆様の温かい心と励ましに感謝
これから「伝える」から「伝わる」誌面づくりを目指します

ますます重要になる議会広報の主軸として、議会だより編集の
さらなる向上を図るために、これまでを振り返ります。

議長に聞く

聞き手：今田光弘広報常任委員長

議会だより第一号は平成4年10月

議会だよりの発行が100号を迎えました。第2期から編集に携わってきた立石議長から、これまでの歴史について聞きました。

今田委員長　「議会だより」発行のいきさつは？

立石議長　昭和59年に、公民館報に議会だよりのスペースを取ってもらい掲載したことに始まります。町政についてもっと情報が欲しいとの町民の声があり、その要望に応えようと始まったと聞いています。

単独の議会だよりは平成4年10月からです。当時の薩摩兼光議長は「誰にでもわかる開かれた議会の内容や町政をわかりやすく伝える。町民が関心をもって親しく読んでいただける広報誌にしたい。」と述べています。

今田委員長　当初、議員にとって慣れない仕事で大変だったのではないでしょうか。

立石議長　初代の編集委員長は江川六一郎議員で、発刊及び初期段階の編集作業について中心的な役割を果たしたと聞いています。編集後記中で、「よちよち歩きの編集ではありますが、町民の皆様が関心をもって親しく読んでいただける議会だよりにしたい」と述べ、末永いご愛読が編集委員のエネルギーだと結んでいます。苦労の覚悟が読み取れます。

今田委員長　初めの頃と今の「議会だより」はだいぶ雰囲気が違いますが。

議会だより第１号の時の編集委員のみなさん

立石議長　初めの頃は、議員が書いた記事の校閲は委員全員で行い、それを印刷会社に送り、その後のレイアウトや編集作業は印刷会社にお願いしていました。

全国的にはそのやり方が多いようですが、平成13年の36号からは、編集やレイアウトを市販のソフトを使ってパソコンで行って下版（げはん）（印刷直前）まで作り、印刷会社に送り、印刷だけをお願いしています。

今田委員長　上記の写真を見ると表紙のイメージが変わってきていますね。

立石議長　表紙は顔です。これにはこだわりましたね。これで手に取っていただけるかどうかがきまってくるのですから。

最初は写真を一部使いながら定型の表紙づくりにこだわっている時期ですが、編集委員会ごとに表紙の趣が変わっています。

平成21年の68号あたりから、写真を表紙全体に使うように変化しました。

写真の表情が人に訴える力があることに気がついたのです。行事と人に焦点を当てることにしました。

写真をみるとわかりますが、近年の号は、子どもや母親の登場が目立ち豊かな表情の一瞬を切り取っています。

このような表紙の作り方が、昨年と本年のコンクールの受賞とつながっているといっていいと思います。同時に内容も変化しました。

今田委員長　内容等にはどのような変化があったのでしょう。

立石議長　初期の議会だよりは、本会議の内容や一般質問

に記事が集中していました。

次第に本会議中心の報告から、議会側を意識した内容に変わっていきます。68号からはそれまであった町長の行政報告を載せていません。議会からの観点をより重視するためで、同時に審議の過程や採決の結果などが、載せられるようになりました。

また、住民参加をより推進するような記事、たとえば、言葉の解説や、クイズや町のトピックスなどの記事も、子ども議会や出前議会などの活動についても、積極的に掲載するようにしてきました。

パソコンを使っての編集作業中の当時の編集委員

今田委員長
このような変化のポイントは？

立石議長
広報の研修会や専門家のアドバイスが大きいと思われます。

例えば、読まれてなんぼの週刊誌や新聞などの誌面づくりやレイアウトを十分に参考にすることも教わりました。文字の使い方や文章の作り方などのちょっとしたルールを守るだけでも誌面が変わることなども知りました。

今田新委員長も全国の研修会などにどんどん出席して勉強し、よりよい議会だよりを作ってください。期待しています。

今田委員長
荷が重いですが、頑張ります。

この度、全国の議会の広報コンクールで7位という優良賞をいただきましたが、いつごろから意識していたのですか？

立石議長
実は、平成16年の頃、当時は川村議長でしたが、「いつかは、全国のコンクールに出したいね」と話したことがあります。その時は、自分たちのレベルではまだまだで自信は全くありませんでした。

それから12年後の昨年、宮崎前広報常任委員長の時に小値賀町議会として初めて応募しました。

そして、いきなり奨励賞、そして今年は優良賞に輝きました。

宮崎委員長をはじめ広報常任委員会の皆さんの汗と涙の賜物です。

まさに良い記念となりました。１００号に至るこれまでの議会の編集委員の歴代の皆さんのご努力の蓄積が今回の結果を生んだものと思います。

今田委員長
議会改革や今回の議会だよりの表彰などで、他の議会から視察も来るようになりましたが、どの様なことに注目が集まっていると思いますか？

立石議長
まず、発行までのスピードですね。定例会後1週間前後で発行する議会は、ほとんどありませんね。そして、議員が編集ソフトを駆使して、下版まで作り上げるのも、珍しいことです。

視察に訪れた議会の皆さんのほとんどが本町の広報常任委員会の頑張りにはビックリされます。

今田委員長
今後の議会だよりにとって大事なこととは？

立石議長
昨今、議会広報は単なる結果の報告だけではなく、現在進行形の問題提起や議会活動についてもっと知っていただくことが、大事とされています。

また、町民と議会の溝を小さくするための「議会の見える化」にとって重要な役割を果たすのが議会だよりです。

議会改革に取り組む本町議会だからこそ、掲載する事柄はあふれています。議会が果敢に課題に取り組む姿勢そのものが誌面を豊かにしていくことになるでしょう。

議会だよりの果たす役割は以前より格段に大きくなりました。

これからも広報常任委員会には頑張っていただきたいと思います。

今田委員長
最後に１００号発刊とこれからの議会だよりに対する思いを？

立石議長
なにより読者である住民の皆さんが「議会だより」を手に取り、読んでいただくことが一番です。

そして、良きにつけ悪しきにつけ、読んでいただいた感想や要望をお寄せいただくことも、今後より良い議会だよりになるためには必要なことです。

議会だよりを皆様と共に作り上げていく態勢ができればと夢見ています。

これまでに編集に携わってこられた議員の皆さんや事務局の皆様のご労苦の積み重ねで、ここまで来ました。

改めて皆様へ感謝申し上げます。

そして、町民の皆様には、これからもよろしくお願いします。

【今田広報常任委員長から】

議会だよりの第１号は１９９２年。

バルセロナ五輪で岩崎恭子が金メダルを獲って「今まで生きていた中で一番幸せです。」と言い、甲子園では松井秀喜が５打席連続敬遠で世の中を騒がせ、尾崎豊が亡くなって多くの人が悲しんだあの年です。

遠い昔の記憶のようですが、その頃から綿々と引き継がれてきた「議会だより魂」は、１００号という大きな区切りを経て、更に将来の新たな歴史に向かってスタートします。

とは言うものの、議会だよりは作ってなんぼ、ではなく、読まれてなんぼ。重責ですが、皆様に読まれ、親しんでいただける誌面作りをしてきた多くの先輩議員の心を身が引き締まる思いで引き継ぎたいと思います。

現在の編集委員（第１号の時の位置を意識）

読者投稿

議会だより創刊号発行当時、議会事務局書記をしていた松永清美さんから当時の編集委員さんへお手紙を出していただきました。

拝啓
平成四年当時の小値賀町議会の皆様へ。

本日、『おぢか議会だより』は、発刊１００号を迎えました。

〝継続は力なり〟の言葉どおり、四半世紀のときを経て成し遂げた素晴らしい発行数です。

思い起こせば、創刊号表紙の、『おぢか議会だより』の筆文字は、当時の議長、薩摩兼光氏の直筆です。今では永久保存版ですね。

島田伊勢松副議長、なんのノウハウもない中の記事づくり、ご苦労なさいましたね。

中村正議員、橋本友一議員は、遠い斑から、そして小崎万介議員に至っては向かいの大島から、編集作業のため、幾度も事務局登庁、今思えば、本当にご苦労さまでした。

そして、なんと申しましても、初代編集委員長として、エネルギッシュに発刊に向けてご活躍なされた江川六一郎議員、この１００号到達、喜んでいただいていますでしょうか。

その誇り高き先輩議員が取り組まれた〝開かれた議会活動〟を町民皆様にお届けしたいという強い思いは、長い年月を経ても絶えることはありませんでした。

だからこそ息吹いた芽は葉となり茎となり、今や大きな花を咲かせています。

小値賀町議会議員として生きづいた魂が、今日も活躍し続ける現町議会議員のお一人お一人にしっかりと受け継がれています。

これまで携われた小値賀町議会議員のすべての皆様とともに、この１００号の記念誌発行を心よりお慶び申し上げます。

定例７月会議

通年会期制になってはじめての定例月会議

昨年までは、６月定例会議でしたが、本年より通年の会期制になり、通常は毎年７月15日から17日までの開議となります。本年は土日祝日にかかりますので、３日ずれて18日から20日の３日間になりました。

主な議案は、一般会計の補正予算、４つの特別会計補正予算と教育委員会委員の任命の同意と固定資産評価委員の選任の同意でした。

一般質問は今田議員が登壇し、「診療所建て替えの候補地について」質問しました。

初日の夜間議会の傍聴者は30人でした。

一般会計補正予算（第１号）

歳入歳出それぞれ 8220 万円を追加し、予算総額を 27 億 2820 万円に

主な歳入	
地方交付税	2030 万円
県支出金	2799 万円
基金繰入金	3300 万円

主な歳出	
総務費	1187 万円
民生費	1074 万円 (減額)
衛生費	4008 万円
農林水産業費	1029 万円
商工費	3035 万円

今回の補正予算で注目すべきところ

衛生費 (保健衛生費) の補正

古くなった診療所の建替えの準備が始まったことによる、予定地 (診療所の前の埋め立て地) の造成工事測量設計業務委託、用地購入費、移転補償金、現診療所の耐力度調査費合わせて 3600 万円の予算が決定した。

商工費 (商工業振興費) の補正

雇用機会拡充事業補助金 2365 万 4000 円

これは、国境有人離島新法のもと、離島の人口減を止めるべく、島での雇用の場を増やす取り組みである。今回は３件の新規事業の応募があり、認められる可能性は高いと思われる (最終的には国の判断による)。

熱くなって質疑の段階で政策論議に発展も

矢継ぎ早に質疑、活気ある会議

総務課長と建設課長は、ひな壇実質デビュー

―緊張の面持ちで答弁「ドキドキしました～」―

【問】今回の歳入の地方交付税の増額は？

【答】特別交付税を実績にもづき歳入予算に。

【問】総務費の世界遺産登録記念事業報償費とあるが、何を予定？

【答】フォトコンテストを予定。

【問】総務費のふるさと留学受け入れ構築事業委託料の中身は？

【答】学校存続の取り組みの一環で、島外からの子ども受け入れを検討中。まず、島内における協力体制づくりのためにパンフレットを作成する。

【問】民生費の減額補正の主な理由は？

【答】こども園の保育士を採用するための当初予算であったが、応募者がいないので、今回減額した。

【問】これからの応募も考えると、今回減額しないで、採用をもっと積極的にするべきでは？

【答】あきらめずに頑張る。

【問】農林水産業費の保全松林緊急保護整備の作業委託料が増額補正されているが、計画的に実行できるのか。

【答】そのように務める。

【問】畜産業費の130万円の補助金は？

【答】９月に宮城の仙台で行われる５年に１回の牛のオリンピックに、小値賀の牛が長崎県の代表の一頭となり、出場する。それをサポートする態勢への補助金。

夜間議会に向かう傍聴者のみなさん

【特別会計補正予算】

国民健康保険事業特別会計補正予算（第１号）

1574 万 8000 円を追加し、
総額 6 億 274 万 8000 円に

主な歳入
- 国民健康保険税　1512 万 3000 円
- 共同事業交付金　937 万 4000 円 (減額)
- 繰入金　999 万 9000 円

主な歳出
- 保険給付費　860 万円
- 諸支出金　579 万 9000 円

渡船事業特別会計補正予算（第１号）

6 万 9000 円追加し、総額 6386 万 9000 円に

簡易水道事業特別会計補正予算（第１号）

737 万 5000 円減額し、総額 7212 万 5000 円に

下水道事業特別会計補正予算（第１号）

266 万 6000 円を追加し、総額 1 億 4406 万 6000 円に

注目すべきは国民健康保険事業

国民健康保険税が1億円の大台を超え、被保険者の負担が平均で1万3千円値上がりした。年々高齢化と医療費の増加が続いており、国保事業の運営が厳しいものになってきている。

審議では、今後の町民の負担軽減の対策等について突っ込んだやり取りがなされた。町当局からは、この問題についてはしっかり検討をするとの答弁があった。

来年度にはこの事業は長崎県で一つに統合される。町民(議会)としては目が離せない問題としてとらえ、これからの動向を更に注視していきたいものである。

教育委員会委員任命の同意（再任）

教育委員の任期満了に伴い、中村好秀氏を教育委員に任命することに議会は同意いたしました。任期は４年です。ご活躍を期待します。

中村好秀　氏

小値賀町の子どもたちの為に頑張ります。

教育委員会委員任命の同意（再任）

教育委員の任期満了に伴い、田口美津子さんを教育委員に任命することに議会は同意いたしました。任期は４年です。ご活躍を期待します。

田口美津子さん

微力ですが　引き続き子供たちが日々を笑顔で過ごせるように頑張ります。

固定資産評価審査委員会委員の選任の同意

固定資産評価審査委員会委員の福田等氏の再任について議会はこれを同意しました。

町内の固定資産税等に関する不服審査等に尽力願います。

福田　等　氏

引続き務めさせていただきますので、よろしくお願いします。

いっぱんしつもん

知らないことを聞くことが質問？
いやいや、議員は一般質問で政策論議をします。
公に自分の考えを訴える場であり、本会議の華です。

診療所建て替え場所の決定は慎重に
現診療所前の埋め立て地を前提にして地盤強化を図る

【問】今田光弘議員
町長から、現診療所の駐車場の前の埋め立て地に新診療所を建設したい旨の報告があり、ほかに建設候補地があれば示してほしいといわれた。
そこで議会は、昨年からのアンケート調査や出前議会での町民の声も踏まえ、10回にわたり協議を重ねて、この件に関する報告書をまとめた。
埋立地を予定地とした要因は？

【答】西町長
利便性、養寿園との関連、大規模災害を想定した場合の適地という観点からです。

【問】今田議員
議会から提案された候補地は検討したのか。

【答】近藤診療所事務長
カトリック幼稚園の下や役場前の駐車場は検討しましたが、浄善寺周辺とかは検討していません。現在の敷地面積と、利便性、養寿園の近くを考えました。

【問】今田議員
大規模災害時に重要な役割を担う診療所が埋立地で良いのか。

【答】西町長
地震や津波も総体的に問題ないと専門家の意見もあります。

【問】今田議員
震度５程度でも液状化で被害が出る可能性が高いので危惧する。造成コストが高くなる可能性もあるがどう考えるか。

【答】西町長
確率の問題。震度６がきたらインフラは全部壊れてしまいます。どの辺が数字的にまともかは見解が違うようです。
常識を逸脱するような造成費用がかかる場合は建設を中断することは当然だと考えます。

【問】今田議員
30～40年先、次世代の人々が安心して暮らせるような町づくりが必要で、仮にあの場所が駄目だったら他の候補地を見つけるとか検討の余地があるのではないか。

【答】西町長
今の候補地が最適だと思っています。
広さも健康管理センターをどうするかの問題等も絡んでくるので慎重に検討します。

【問】今田議員
今後の建設に向けてのスケジュールは。

【答】西町長
今年度は基本計画作成と土地購入、用地造成にかかる測量設計、地質調査、現診療所の耐力度調査を予定。
その結果を踏まえ、来年度に用地造成工事、診療所の基本設計、実施設計、ボーリング調査、31年度より建設工事、32年度中に新診療所での診療開始の予定です。

建設予定地から現診療所を見る

ご存知ですか？ 議員派遣

議員の研修や調査のための公費の出張については、公の手続きを経なければならないことになっています。
これが議員派遣です。
それ以外にも議員は政策研究のため個人で調査研究していますがそのための出張は自費となります。
議会の公務の出張は厳格に決められているのです

だから、本会議で報告

地方議会議員の公務は、
- 本会議、委員会への出席
- 議会を代表とする議長としての会議や会合への出席
- 議員派遣
- 委員派遣

の4つに分類されます。

【議員派遣の根拠】
地方自治法第100条13項に基づき、会議規則に「議員を派遣しようとするときは、議会の議決でこれを決定する。但し、緊急を要する場合は議長において議員を派遣することができる。」と定め、必要な事項を明らかにするようにしています。

議長としての行事出席でもなく、会議が行われる本会議場や委員会室へ出向くのでもなく、議員派遣、委員派遣のいずれの手続きも経ていない場合、議会の公務とはなりません。公務でなければ、公費（議会費）から旅費や費用弁償は支給できないし、公務災害の適用もないし、議会事務局が随行することもできないことになっています。

長崎県の国保・健康増進課へ
平成３０年度に予定されている国民健康保険都道府県統一化に向けての議会としての意見を訴えてきました。現時点では、まだ先のことは具体的になっていないため、あまり突っ込んだ話はできませんでした。

長崎運輸支局へ
タクシー問題の解決に向けて、交通空白地域の移送サービス等の導入についての説明を受けました。短期的な取り組みと中長期的な取り組みに分けて今後も検討していく必要性を強く感じました。

長崎市長崎県建設総合会館へ
地方分権の中で議会として必要な地域の独自政策条例等を審査する議員の法務の能力向上が求められます。３日間にわたり、「自治体における政策法務のプロセス」「立法法務のポイント」「争訟法務のポイント」について、実例をもとに勉強しました。

九州商船（株）本社へ
新船建造について何度も協議を重ねてきましたが、ようやく建造に踏み切る最終段階に至っているとの情報を得、さらにひと押しするため、九州商船（株）本社に参りました。これを受けて４月２０日には新船建造についての正式な報告があり、ようやく本格的に新船建造のスケジュールが動き始めました。
主なものは、次のとおりです。
- 国への新船フェリー建造補助申請（６月末）
- 補助の決定時期の予測（８月初旬？）
- 造船所の決定（８月中を予定）
- 新船フェリーの引き渡し（31年４月予定）

長崎県町村議長会主催の議員研修会へ
７月３日長崎県市町村会館で、駒澤大学教授の大山礼子氏による「これから求められる町村議会の役割」、東海大学教授の末延吉正氏による「今後の政局・政治展望を探る」と題して講演がありました。住民の町政への参加をどう図るかなど今後の議会活動にとって貴重な内容でした。

「議会モニター」が決まりました

昨年募集していました「議会モニター」が決まり、任命式を本会議場で行いました。
任期は2年間です。今回は5人をお願いし、あとは来年度、選任の予定です。
今回「議会モニター」になっていただいた方々は、近藤一輝さん、中谷功さん、浦いせ子さん、福田健一さん、山内大介さんです。よろしくお願いします。

全国に届け 小値賀牛

小値賀牛の名声よ再び

第11回 全国和牛能力共進会へ出場！

平成29年9月7日（木）から11日（月）までの5日間、宮城県仙台市で開催される全国和牛能力共進会「和牛の祭典2017inみやぎ」へ

以前、議会だよりの「知っちょるかい?」のコーナーで紹介したことがありますが、イギリスのアニマルズ・フレンドという雑誌に「小値賀牛は世界一」（明治40年）と絶賛された記事を覚えていますか？
この度、また小値賀の名声が高まるかもしれない快挙がありました。

選考会で県代表となった「まさみ号」

平成29年9月7日から11日までの5日間、全国39道府県約39万人が集う畜産の祭典。全国和牛能力共進会「和牛の祭典2017inみやぎ」が仙台市で開催されます。
なんとここに、長崎県を代表して前方後目の松崎秀利さん所有の「まさみ号」が出場することが決まりました。
出場頭数517頭、種牛総数334頭の中の第5区76頭の中で日本一を目指します。
前回の長崎県大会では長崎県牛の精肉が内閣総理大臣賞を取り、現在の高価格の発端となりました。
今回も是非、好成績を期待するものです。
議会も応援しています。健闘を祈ります。

抱負を語る松崎秀利氏
長崎県産牛の知名度を上げるため頑張ります。

4月会議

「これから、4月30日から翌年の4月29日までの1年間を会期とします」

通年の会期制始まる

4月30日、日曜日ですが、あえて会議を開きました。

小値賀町における通年の会期制の始まりの記念すべき日です。議長は黒紋付き袴で臨みました。

今まで、年に4回の定例会を開会していましたが、これからは1年間通しての会期となりました。

町長の召集は、4年に1回、選挙後の時だけになります。あとは自動的に会期が始まり、議会はいつでも会議を開くことが出来ます。

その日の議長のあいさつと町長のあいさつを掲載します。

議長あいさつ

小値賀町議会は、昨年6月の定例会で、「小値賀町議会基本条例」を議決しました。これまでと大きく変わる点の一つは「通年の会期」にすることで、議員の任期の開始日の関係で、今日がその始まりとなる記念すべき日です。

形式的ではなく、実質的な会議や行動が展開されることを大いに期待するものです。制度を整えただけでは、町の活性化は実現できません。制度を生かすのは議員各位及び町長をはじめ執行部の皆さんです。皆さんのさらなる活躍を望むところです。

町長あいさつ

通年議会として最初に開かれる議会ですので、開会に先立ちまして、町民を代表してお祝いのご挨拶を申し上げます。

この通年議会制は、長崎県の市町では壱岐市に続き制定されています。特に会期を定めず、定例日に会議を開くことになっていますので、我々執行部としても最大限その趣旨を尊重し、議案の提案等も開会期日に合わせて提出するよう努めてまいりたいと思います。

「行動する議会」「町民とともに歩む議会」、「政策を提言する議会」を目指し、「出前議会」や「議会と語ろう会」の開催、また、議会だより発行等のわかりやすい広報活動など、議会基本条例にうたわれた事項について着実に準備を進められ、本日を迎えることとなりましたが、これまでのこれらの活動に対し、改めて敬意の意を表するとともにお喜びを申し上げます。

議会と首長・執行部は、地方自治の二元代表制のもと、地方自治という車の両輪として町民のための努力を惜しんではなりませんし、これからもお互い切磋琢磨して町政の運営に当たってまいりたいと思いますので、今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。

6月会議

国保税が大幅値上げもやむなし？
医療費総額の増加とそれを支える被保険者の減が理由
論点は公費の下支えをいくらにするか

国民健康保険税の税率が大幅に上がる改正案が出され、自由討議を経て、賛成多数で可決

国民健康保険は、今年度までは市町村ごとに運営されており、小値賀町では町民の約4割、千人に満たない数の人々が加入している小さな保険者です。

町では、なるべく低い税率にしようと、今までは財政調整基金（町の預貯金のようなもの）から毎年約2千万円程度繰り入れてきました。

しかし、最大で約2億円あった基金は、約5千5百万円まで減り、このままでは基金は枯渇してしまいます。

そのため、基金からの繰り入れを今年は約1千万円に抑える一方で、国民健康保険の税率を上げざるを得ないとのことで、小値賀町国民健康保険税条例の一部を改正する条例案が6月会議に提出されました。

1人当たり平均で年間約1万3千円、最大で15万円程度、最低でも7千円程度上がる計算になります。

（既に今年度の税額は通知されていると思いますが、大幅な増税となってしまいます。）

医療給付費分を例にとると

所得割　5.6％が　8.2％

均等割（1人につき）
1万6千円が2万6千円

平等割（1世帯につき）　1万6千円が3万円となります。

審議の途中で、本件を総務文教厚生常任委員会に付託して集中審議を求める動議が　横山弘藏議員から提出されました。

採決の結果、賛成少数（横山弘藏、浦英明、今田光弘）で否決。

原案に対する討論

原案の採決の前に4人の議員が議案に対する賛成、反対の立場で討論を行いました。その内容は次のとおりです。

反対討論　横山弘藏議員

住民に説明する時間も、いろいろ調査する時間もなかった。住民に負担を強いるような案件に関しては、もう少し慎重に取り扱ってほしい。よって反対する。

賛成討論　今田光弘議員

本当はもっと検討する時間が欲しかったが、執行部も本当に苦労された末の苦渋の決断とのことで、賛成せざるを得ない。

反対討論　浦英明議員

大幅な値上げにつながるようなことを唐突に言われても、議員として町民に説明する責任がある。町も町民に対し何の情報も流していない中での大幅な値上げについては反対する。

賛成討論　宮崎良保議員

急激に上がると町民は大変だろうが、国保運営協議会の中でも様々な意見は出たが、値上げはやむを得ないと結論付けており、それを尊重したい。賛成する。

その後の採決で　賛成5、反対2で本件は原案どおり可決しました。

賛成（宮崎良保、土川重佳、末永一朗、松屋治郎、今田光弘）

反対（横山弘藏、浦英明）

後期もがんばるぞ〜〜

後期の委員会態勢が整いました

４月に決定
任期は２年

総務文教厚生常任委員会委員長に松屋治郎議員、産業建設常任委員会委員長に横山弘藏議員、広報常任委員会委員長に今田光弘議員が就任。

総務文教厚生常任委員会

委員長　　松屋治郎
副委員長　今田光弘
委　　員　立石隆教　宮崎良保
　　　　　浦　英明　末永一朗

【松屋総務文教厚生常任委員長のコメント】

前期２年間は産業建設常任委員会の委員長として小値賀町の産業振興策と活性化策(農業・漁業・観光)等を中心に取り組んでまいりました。後期２年間は、総務文教厚生常任委員会に所属することになり、再び委員長の選任を受け、誠に身が引き締まる思いです。

町民の皆様の安心・安全で住み良い街づくりに、微力ではありますが委員会のメンバー全員と町民の皆様のご指導・ご協力を得ながら努めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

議会運営委員会委員長は土川重佳議員が再任

【土川議会運営委員長のコメント】

私の主な仕事とは、国レベルで申し上げますと、国会対策委員長です。

小値賀では、昨年までは年４回の定例会が開催されていましたが、議会改革が進み本年４月30日より１年間を通じて通年の会期制とし、３月・７月・11月となります。

議会が活発に運営できるよう頑張って行きます。

議会運営委員会

委員長　　土川重佳
副委員長　横山弘藏
委　　員　宮崎良保　松屋治郎
　　　　　今田光弘

産業建設常任委員会

委員長　　横山弘藏
副委員長　土川重佳
委　　員　立石隆教　宮崎良保
　　　　　浦　英明　末永一朗

【横山産業建設常任委員長のコメント】

島の産業では、まず漁業の振興が一番です。水揚げ高は年々減少して厳しい状況が続いています。

後継者不足にも直面して色々な問題が山積みです。

本委員会は、これらを解決の方向にもって行くために行動する委員会です。

農業・商工業・観光産業など、あらゆる産業を活性化するために委員会メンバー一丸となって、しっかり取り組みたいと思います。

町民皆様と一緒に考え、共に行動する委員会を目指します。

広報常任委員会

委員長　　今田光弘
副委員長　宮崎良保
委　　員　横山弘藏　浦　英明
　　　　　松屋治郎

【今田広報常任委員長のコメント】

広報常任委員会の主な仕事は、「議会だより」の編集と発行です。２年間は委員として携わってきましたが、この度は委員長に選任され(てしまい)、その役割と責任は大きく重く、どことなくプレッシャーを感じています。

「議会だより」以外の広報活動にも取り組み、より開かれた議会に近づけるよう、失敗やタブーを恐れず、いろいろなことに思い切ってチャレンジしていこうとも思っています。

本年５月から新たな委員会活動が始まりました。

今回より議会基本条例の制定によって、１年中委員会を開ける状態にしています。

是非　委員会の傍聴もお願いします。

5年前の一般質問 やっと実現

小値賀港に風雨防止用通路シェルター設置

平成 29 年 6 月 27 日に風雨防止用通路シェルター引き渡し式が小値賀港ターミナルで行われました。
公益法人「九州運輸振興センター」から寄贈されたもので、福山専務理事が来島され、小値賀町長、議長、九州運輸局佐世保海事事務所長、県北振興局長等の出席のもと、小値賀こども園の園児の皆さんたちが見守る中、式典が行われました。

議会に対しても、幾度となく町民から要望されていた通路の雨除け対策でしたが、ここにきてようやく実現できました。

思えば今から5年前、土川議員が一般質問で正式に取り上げ「雨の日のフェリー乗降時に高齢者や病院に通う人たちがとても難儀しているので、雨除けの通路ができないか」と訴えました。

おりしも、議会では、フェリーのバリアフリー化について検討している時でしたので、あわせての調査研究をすることに。

その時に知ったのが公益財団法人の「九州運輸振興センター」の存在でした。

行動的な議会は、早速、福岡の事務所まで出かけます。風雨防止用通路シェルターに関する情報を得て帰島。

その後「現段階で常設の通路設置が難しいなら、その代替案とこの財団法人からの助成を受けたらどうか」と本町の担当に伝えました。しかし、なぜか前に進みません。

しびれを切らして、直接介入？

その年は、募集要項が来ていないとのこと。

翌年の確認時は、締め切りが過ぎているとのこと。

しからばと、作戦変更。

行政権の侵害にならないようにと遠慮していたが、直接、担当の建設課長に内容を詳しく説明することに。すると行動は早かったです。

具体的な課題をすぐに解決し、昨年、通路シェルターの申請書を提出。この度の通路シェルターの設置にこぎつけました。

九州運輸振興センターには、他の団体との競争もありながらも、本年小値賀町からの通路シェルターの申請に答えていただきました。

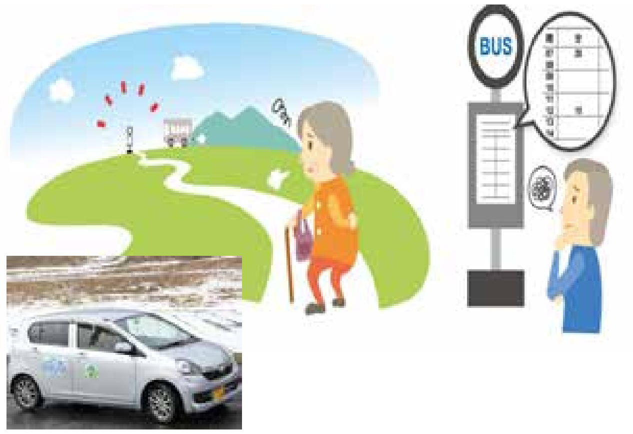
心より感謝申し上げます。

シェルター引き渡し式のセレモニー

こども園児による渡り初め

「タクシー問題」何とか目途

小値賀町社会福祉協議会が公共交通空白地の特別措置により、自家用自動車を用いて、有償で運送が認められます（有償運送・福祉タクシーなど）。早ければ 8 月には許可が下りるのでは？との見通し。



出前議会でも経過を詳しく説明させていただきましたが、この度、クリアすべき諸問題がほぼ解決し、公共交通空白地と認められる状況となりました。

公共交通空白地と認定されれば、二種免許を持たなくても、また車も白ナンバーのままで、有償での運送ができるようになります。

手続きの流れは、まず、これを担う団体がいて計画を立てる事、その計画をもとに、地域の交通関連の関係者による運営協議会が開かれて承認され、運転予定者の講習が終わると運輸局に申請され、その後約一か月後には許可が出されるという段取りです。

現在、小値賀町社会福祉協議会が実施団体になることが決まり、福祉タクシーと有料輸送タクシーの両方を担うことになります。

運転者はボランティアの形になりますが、必ず講習を受けたものとの決まりがありますので、講習を受けたかどうかが申請の条件の一つになります。

今後、正式な緑ナンバーのタクシーが実現すれば、今回の社会福祉協議会の有償タクシーは廃止することになると思います。いわばピンチヒッター的な役割だと議会では考えております。

少し時間はかかると思いますが、緑ナンバーのタクシーを復活させることが大事です。

今回の制度では、観光客など島外の方が利用できないという難点もあり、最終的な問題解決とはなりません。議会では今後も、さらに課題解決に向けて努力していきたいと思います。

具体的なことは、社会福祉協議会から詳しいお知らせがありますので、それをご覧ください。
現段階での大まかな内容をここに示しておきます。

名　　称　移送サービス（公共交通空白地有償運送）
事業主体　小値賀町社会福祉協議会
対象者　　小値賀町に在住する者、但し、事前に登録と回数券購入が必要
料　　金　個別送迎　島内一律（片道）300 円
　　　　　乗り合い送迎　週 4 日（バスの便が悪い地域を重点に運行　1 人 200 円）
利用時間帯　9：30 ～ 15：30 を基本とする

今年も出前議会 皆さんと 共に町づくりを

やはり、出席率第一位は六島地区

2位は2年連続唐見崎地区、5位から3位に躍進は黒島地区。笛吹地区はいつもどおり断トツの最下位です。次に期待します。

今年も4月24日から4月29日までの6日間、17の地区で出前議会を開催しました。（納島は農作業の都合で、5月17日に実施）

毎回、出かける地区が偏らないよう議員の構成を変えながら3班に分けて、伺うようにしています。

出席していただいた総合計は218人となり、昨年度より12人多くなりました。他の議会では参加者の減少傾向が課題になっていますが、本町では嬉しい限りです。

地区別の出席率は上の表に示していますが、人数の少ない地区がやはり出席率は良いようです。

六島地区はここ数年100％で1位をキープしています。

2位も昨年同様唐見崎地区です。

今年3位にランクが上がったのが黒島地区です。出席率は昨年の28％から36％になりました。

笛吹地区や浜津地区など人口の多い地区は、出席率は下がります。それにしても毎回の笛吹地区の出席率1％以下は、寂しい限りです。町政に関心のある方が多いと思うのですが・・・。不思議です。

	地区名	出席率	参加者数
1位	六島地区	100％	5人（うち2人は協力隊）
2位	唐見崎地区	44％	16人
3位	黒島地区	36％	17人
4位	納島地区	30％	6人
4位	牛渡地区	30％	6人
6位	筒井浦地区	28％	19人
7位	大島地区	25％	16人
8位	木場地区	22％	15人
9位	大浦地区	20％	14人
10位	中村地区	19％	21人
11位	前方後目地区	15％	9人
12位	斑地区	13％	24人
13位	相津地区	10％	9人
14位	笛吹在地区	7％	9人
15位	柳地区	6％	11人
16位	浜津地区	5％	12人
17位	笛吹地区	0，7％	9人
合計			218人（昨年は196人）

出前議会次第

「①小値賀町の主な予算と事業についての報告」、「②議会が取り組んでいる主な課題と経過報告」、「③みんなで小値賀の問題を語る」の次第でお知らせや意見交換を行いました。

プロジェクターを使った説明

パソコンを駆使した手作りの資料作りや配布用のプリント作りも議員の仕事です。

3つのチームの班長が同様に説明できるように打ち合わせを行い、本番に備えました。

パソコンの操作やプロジェクターの設置なども、もちろん議員が行います。

重い機材を担いでの地区回りは伊達や酔狂ではできません。

六島地区にて

予算と主な事業

予算審議の話しを交えながら、航路料金のＪＲ並みへの引き下げ、農業後継者奨学金や漁業就業の支援事業などの説明。野崎島の町道整備計画などについて意見の交換を行いました。

議会が取り組んでいる課題

フェリーの新船建造の実現への取り組み、タクシー問題、診療所建て替え場所の問題、議会改革の経過について説明し、意見の交換をしました。

他の地区の意見はどんなもの？に答えて

各地区共通の課題や地区ならではのいろんな意見が

木場地区にて

中村地区にて

他の地区ではどのような意見が出ているのか知りたいとの要望がありますので、今回少しだけですが、掲載します。（出前議会全体のまとめは、議会事務局で閲覧できます。）

各地区の主な意見

【木場地区】

◉新船建造でバリアフリーになるのはいいが、直接船と通路を結ぶボーディングブリッジの設置の考えは？

議会「検討項目の一つとして認識。環境が整うようにすることが先決」

◉今後のスーパー台風が心配。ハザードマップなどは整備しているのか？

議会「一応整備しており、近々公表予定。」

【唐見崎地区】

◉葬斎場で、お通夜するのが増えているので、ロビーの改修を考えては？

議会「認識している。委員会で取り上げてみた

柳地区にて

唐見崎地区にて

牛渡地区にて

大浦地区にて

黒島地区にて

い」

◉カラスの駆除をしてほしい。

【中村地区】

◉診療所はＲＣ造なので、まだもつはずだ。

議会「塩害がひどいと聞く。潮風で傷みがひどい」

◉日曜日に食事ができる店がない。

【柳地区】

◉旧はまゆうや消防車の売却を考えるべき。財産なのだから。

議会「財産の認識あり。当局に確認する」

【大浦地区】

◉一時的には自家輸送もよいが、将来は正規のタクシーをつくるようにしてほしい。

議会「中長期の課題として検討している」

【牛渡地区】

◉観光客が野崎島に行っても小値賀本島に寄らなければ町にお金が落ちない。対策を。

議会「新規航路や運航スケジュールを見直すなどの取り組みを模索している」

◉宿泊施設の不足が考えられるが、対策を。

【浜津地区】

◉町長など３役の報酬アップより嘱託職員や臨時職員の賃金をあげるのが先だとして議案を否決したそうだが、具体的な手順は？

議会「嘱託職員や臨時職員の賃金の見直しを申し入れている」

【六島地区】

◉六島への渡海船の時間帯が不便。

議会「離島間の利便性を考えているが、どの島も希望する時間が同じなので、期待に沿えないこともある」

【筒井浦地区】

◉津波や高潮は心配ないのか。

議会「県の示したガイドでは問題ないとしている。高潮は今後の動向を注視」

◉財政的に考えて、新規の建物より、現存のものをリフォームしては？

議会「古いものの活用は同感である。」

【前方後目地区】

◉個人個人ではなく、みんなで力を合わせて起業する方法を考えては？

◉政務調査費は小値賀町にはないと聞くが本当か？

議会「本当だ。」

◉災害時の備蓄がないと聞くが本当か。避難場所の再点検も必要だ。

議会「ご意見ごもっとも。すぐに調査検討する」

【相津地区】

◉ゴミ置き場の扉が重くて女性が難儀している。

議会「担当に伝えるがある程度の重みも必要」

笛吹地区にて

笛吹在地区にて

斑地区にて

大島地区にて

相津地区にて

浜津地区にて

納島地区にて

前方後目地区にて

筒井浦地区にて

【笛吹在地区】

◉去年のダイオキシン問題は驚いた。その後の町の説明がなかった。

議会「町長はすぐに対処した。余計な心配をかけたくなかったと発言している」

【笛吹地区】

◉国境離島新法とこれまでの法律の関係は？

議会「離島振興法や過疎法なども重層的に関連する」

【黒島地区】

◉漁船のエンジンのボーリングの補助は漁業者の維持に必要。

議会「金額等も含めて、検討すべきと考えるが、難しい問題もある」

◉ふるさと納税をもっと進めては？

議会「議会でも検討した。諸問題があり、町は積極的でない。総合的な観点からさらに検討。」

【大島地区】

◉Ｕターンしようにも、生活のための収入の基盤が弱い。何とかならないか。

議会「現在いろいろな手立てを実施しているところ。農産物加工場もその一つ。水産物加工場も予定している」

【斑地区】

◉火災時のサイレンが鳴るのが遅かった。早くできないか。

議会「調査し、検討」

◉玉石様の井戸を防火用水として整備は？

議会「担当に伝え、検討する。」

【納島地区】

◉タクシーは必要。状況はどうなっているのか。

議会「現在、社協が中心になって、環境整備を行っており、議会も支援している。」

貴重なご意見ありがとうございました。
今後の議会活動や本会議の審議に活かします。
来年もご出席をよろしくお願いします。

議会白書

「議会の見える化」を図るため、毎年、１年間の議会活動内容を町民の皆様にお知らせする「議会白書」を作成することにしており、遅くなりましたがその一部データをご覧ください。

平成28年（昨年1年間）の議会の活動内容を表にしてまとめました

（本会議関係）

本会議は17日間開催され、傍聴された方は87名。一般質問の後に「模擬公聴会」も行い、傍聴された方のご意見も伺いました。

町長の提出した議案数は87件。そのうち、反対した者がいたものの賛成多数で可決されたものが7件、反対多数で否決されたものはありませんでした。

なお、議員提出議案は、議会基本条例を始めとした８件、議員別の一般質問回数は、表のとおりです。

本会議開催状況

		本会議日数	傍聴者数
定例会	第１回	５日	13人
	第２回	３日	34人
	第３回	３日	21人
	第４回	３日	19人
臨時会	第１回	１日	0
	第２回	１日	0
	第３回	１日	0
合計		17日	87人

議員別一般質問

議員名	回数	本会議名
宮崎良保	1	第３回定例会
横山弘藏	3	第１回定例会
		第２回定例会
		第４回定例会
浦英明	1	第１回定例会
土川重佳	0	
末永一朗	1	第１回定例会
松屋治郎	2	第１回定例会
		第４回定例会
今田光弘	3	第２回定例会
		第３回定例会
		第４回定例会

小学２年生の訪問を受ける本会議場

全員協議会開催状況

	開催回数
全員協議会	21回

（全協・委員会）

委員会と全員協議会を合わせると64回となります。

８人の議員がそれぞれいくつかの委員会を掛け持ちしているのが現状で、会議は週に何度か開かれていることになります。

常任委員会等開催状況

委員会名	開催回数	協議案件
総務文教厚生常任委員会	11回	16件
産業建設常任委員会	8回	10件
広報常任委員会	14回	－
議会運営委員会	4回	4件
国境離島活性化委員会	6回	3件
合計	43回	33件

（視察・研修）

議員の政策形成や立案能力等の向上を図るため、議員研修にも積極的に参加しているほか、島外への先進地視察や研修も行い、充実した委員会活動を行っています。

一方で、議会改革度ランキングの上位入賞や議会活動の充実により、視察研修に来島される団体も増えてきています。昨年は５団体です。

委員会の島外視察

委員会名	場所	主な視察・研修内容
総務文教厚生常任委員会	沖縄県伊是名村	環境協力税の現状と観光
		村営船建造の経緯、財源等
	沖縄県恩納村	環境保全条例についてと観光
産業建設常任委員会	長崎県平戸瀬戸市場	開設の経緯や特産品の販売
	長崎県平戸市紐差繁殖牛農家	自由時間の確保、畜産の心がけ
	キャトルステーション	
	田平活魚センター	運営状況と経営状況等
	松浦魚市場・加工場	六次産業化の取り組み
	松浦養殖	運営状況と経営状況等
	長崎県平戸市田平繁殖牛農家	自由時間の確保、素牛の確保
	JAながさき西海農協畜産部	キャトルステーションに関すること
	佐世保市おぢか屋	急速冷凍機についてとネット販売
	佐世保魚市場	六次産業化の取り組み
	鹿児島県肝付町農業振興センター	概要、運営、取り組みについて
	鹿児島県志布志市農業公社	概要、運営、取り組みについて

視察研修受け入れ

開催日	団体名	参加人数
５月17日	波佐見町議会広報調査特別委員会	６人
10月25日	鹿児島県屋久島町議会	９人
10月26日	福岡県筑前町議会	９人
11月１日	静岡県藤枝市議会	１人
11月10日	北海道離島振興町村議会議長会	６人

議会と語ろう会

開催日	参加団体	参加人数	テーマ
11月28日	農業委員会	６人	今後の農業の問題点・新たに取り組む分野
11月30日	老人クラブ連合会	４人	小値賀の将来について・困っていること
	漁協理事	６人	今後の漁業環境について
合計		16人	

子ども議会

開催日	参加者	参加人数
２月８日	小値賀小学校６年生	14人

出前議会

開催日	地区	参加人数
４月25日	中村	15人
	唐見崎	18人
	柳	12人
４月26日	木場	15人
	大浦	９人
	牛渡	５人
４月27日	斑	15人
	筒井浦	17人
	浜津	16人
４月28日	笛吹在	６人
	相津	７人
	前方後目	８人
４月29日	黒島	15人
	六島	３人
４月30日	大島	19人
	納島	９人
５月２日	笛吹	７人
	合計	196人

（出前議会ほか）

「出前議会」は、各地区に出向き、予算や主な事業のこと、議会が取り組んでいる課題等の報告をするとともに、地区や町全体のいろいろなことについて意見交換を行いました。196人の方に参加していただき、ありがとうございました。

「議会と語ろう会」は、テーマを決め、３つの団体の代表の方々との意見交換をしました。

「子ども議会」は、小値賀小学校の６年生が本会議場で町長に対して質問します。

早い時期から地方自治や民意を集約する仕組みについて関心をもってもらおうというもので、14人の一生懸命の姿に、議員として初心に帰るきっかけともなりました。

全国の町村議会では10位、県議会・市議会を入れた全国の議会の中で61位

議会改革度ランキングで小値賀町議会が上位に

県内の議会の中では今回トップに

早稲田大学マニフェスト研究所では毎年、議会の改革度調査を行っており、その結果をもとに全国の都道府県議会、市議会、町村議会を合わせたランキング上位300位までを発表しています。

小値賀町議会は、4年前から226位、127位、168位、132位と300以内に入っていましたが、この度、晴れてベスト100入りしました。県内ではトップとなりました。

マニフェスト大賞審査委員特別賞受賞の時の写真

この度の調査は、全国の議会数1788の内、1347議会が回答した中でのランキングとなります。

本町議会が今取り組んでいる数々の活動が評価されたものですが、町民の皆さんと共に歩む議会を標榜している私たちですから、まさに、皆さんへの評価ということになると考えます。

改革度調査は、①情報共有、②住民参加、③機能強化のカテゴリーに分類し、分析して点数化したものをランキング付けしたものです。

情報公開や会議の工夫、出前議会などの町民との意見交換、模擬公聴会、また次世代を見据えた小中学生の模擬議会などの取り組みが評価されたものだと思います。

また、町民の皆さんの反応はいまいちでしたが、昨年6月の議会基本条例の制定も大きなポイントになったと思われます。

本町議会は、少数ではありますが、あらゆる課題の解決に力を惜しむことなくつぎ込み、我々が果たすべき範囲を自ら広げながら、今後も行動を起こしていく所存です。

皆さんと共に、町づくりに、真の住民自治実現に邁進しましょう。

議会関連のスケジュールはいつもいっぱい

編集後記

4月で議員の任期の半分が過ぎ、議員の仕事の重要さと重さを感じながら、少しずつ仕事のおもしろさとやりがいも感じてきています。

4月から1年間の通年会期制となりました。いつでも本会議を開ける状態になり、委員会の自由な活動ができます。

自分のベストを尽くすことが小値賀町のため、小値賀町民の幸せに直結するとの認識がこれまで以上に必要です。

委員会のメンバーも改選され、新体制です。

100号の重みを感じつつ、皆様に読んでいただけるような誌面に進化させていきたいと思います。

それにしても、暑い日が続いています。あまりムリせず、適度に燃料を補給しながら、ボチボチいきましょう。

今田光弘